

PX10/PX8 PX5/PX3

取扱説明書

このたびは、ヤマハパワーアンプリアイヤー PX10/PX8/PX5/PX3をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。PXアンプの優れた機能を十分に発揮させるとともに、未永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用前に必ずお読みください。
また、ご一読いただいたあとも、不明な点が生じた場合に備えて、大切に保管いただきますようお願いいたします。

- 裏面の「安全上のご注意」をご使用前に必ずお読みください。
- この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。
- この取扱説明書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- この取扱説明書では、パワーアンプリアイヤー PX10/PX8/PX5/PX3を総称して「PXアンプ」と呼びます。
- この取扱説明書では、特に断りがなければPX10のイラストを使用しています。
- PXアンプの設定方法には、ベーシックモードとアドバンスモードの2種類があります。この取扱説明書ではベーシックモードについて説明しています。詳細な設定はアドバンスモードを使用してください。アドバンスモードについては、「PX10/PX8/PX5/PX3リファレンスマニュアル」を参照してください。

「PX10/PX8/PX5/PX3リファレンスマニュアル」は、PDF形式の電子ファイルになっています。このファイルは、コンピューターでご覧いただけます。コンピューターでご覧いただくソフトウェアとして「Adobe® Reader®」を使うと、用語をすばやく検索したり、必要な部分だけを印刷したり、リンクをクリックして該当する項目を開いたりすることができます。特に用語検索とリンク機能は、電子ファイルならではの便利な機能です。ぜひご利用ください。
最新のAdobe Readerは下記のウェブサイトからダウンロードできます。
<http://www.adobe.com/jp/>

特長

- 軽量ながら最大1000Wもの高出力を実現(PX10)
- ヤマハ独自のClass-D技術とプロセッシング技術により高音質と高信頼性を実現
- ヤマハスピーカーの性能を最大限に引き出すスピーカープリセット
- D-CONTOURを始めとするさまざまなDSP機能
- 各種スピーカーへの最適設定を可能にするコンフィグウィザード
- 豊富な入出力端子

付属品

- 電源コード
- 3芯-2芯変換プラグ
- 取扱説明書(本書)
- Technical Specifications(スペックシート、英文)
- 電源コード誤脱防止クランプ
- USBキャップ

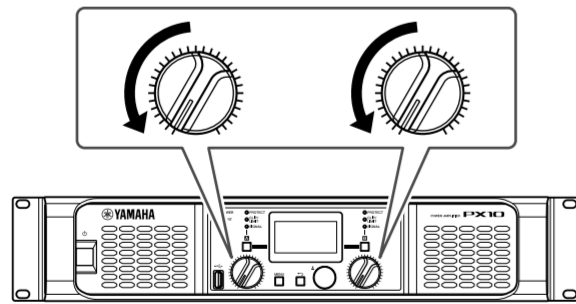
注意
USBキャップは、子供が誤って飲み込まないように、子供の手の届かないところに保管してください。

セットアップ

ボリュームノブを適切に設定するだけで、通常のアンプとして使用できます。次の設定で、スピーカーの性能をより発揮させることができます。

事前準備

必要に応じて、PXアンプをラックマウントします。
電源がオフになっていることを確認し、ボリュームノブを2つとも左いっぱいに戻します。



この取扱説明書では、操作方法を以下の記号で説明しています。

○ (項目名) : [項目名] : メインノブを回して「(項目名)」を選びます。

☞ : メインノブを押します。

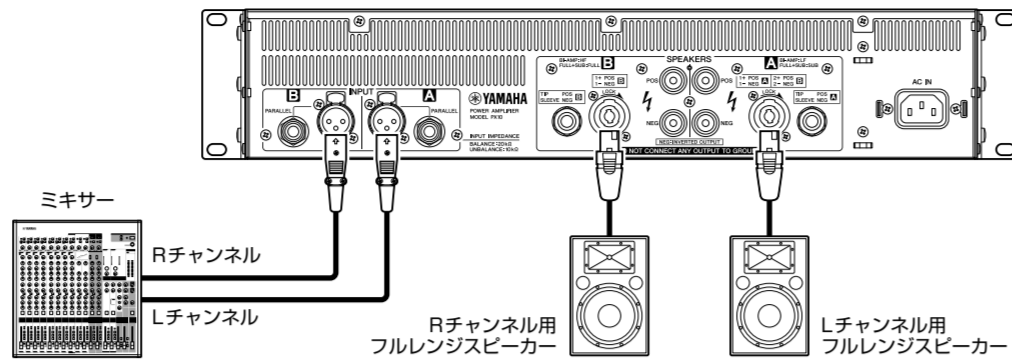
MENU : [MENU]キーを押します。

⏪ : [←] (バック)キーを押します。

A → B : Aの操作のあと、Bの操作をします。

手順間の矢印は、基本的な操作手順を実際(↓)で、前の画面に戻る操作を点線(↑)で示します。

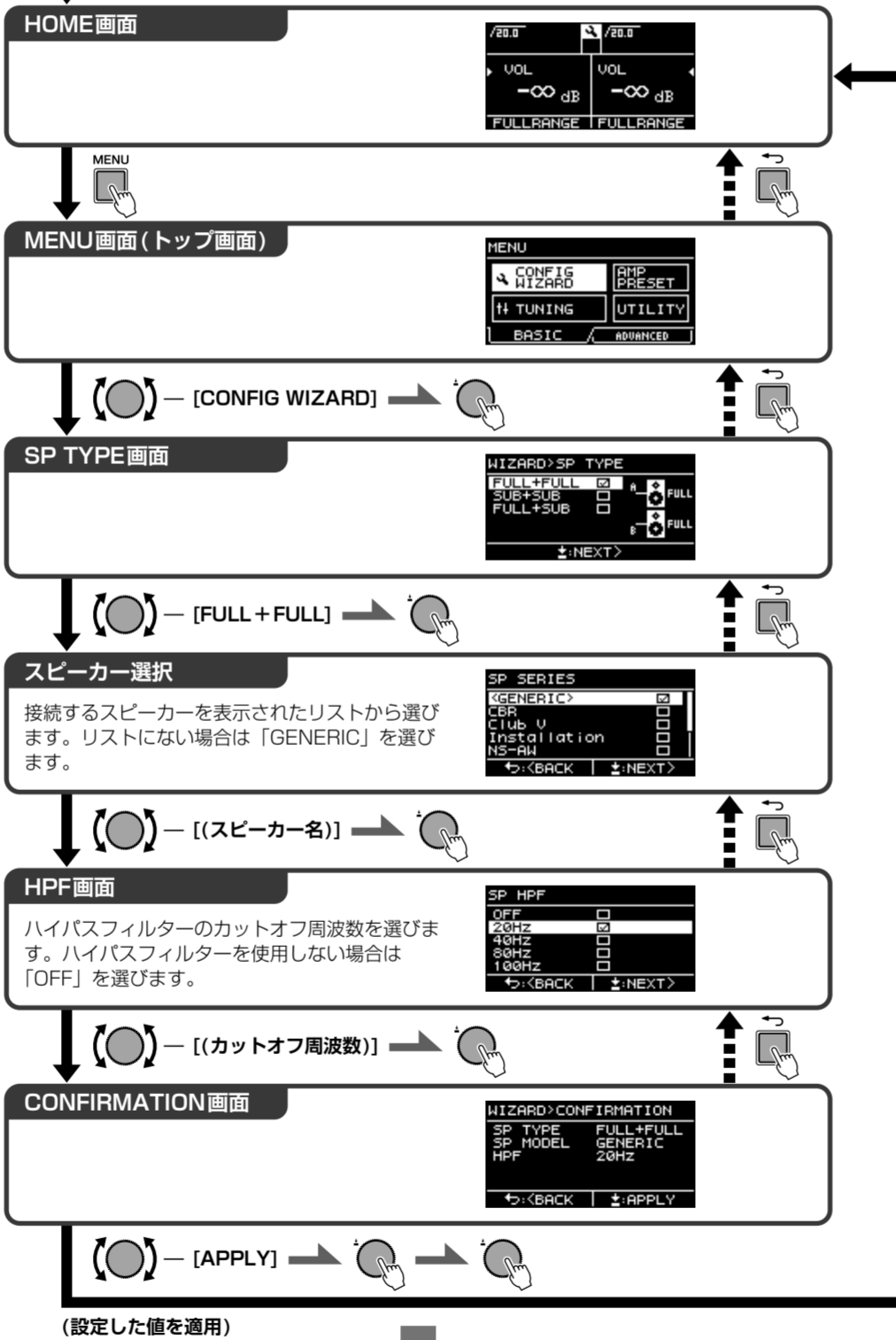
ステレオ接続 (フルレンジスピーカーを2台使用)



注意
「事前準備」を必ず実施してください。電源が入った状態で接続しないでください。

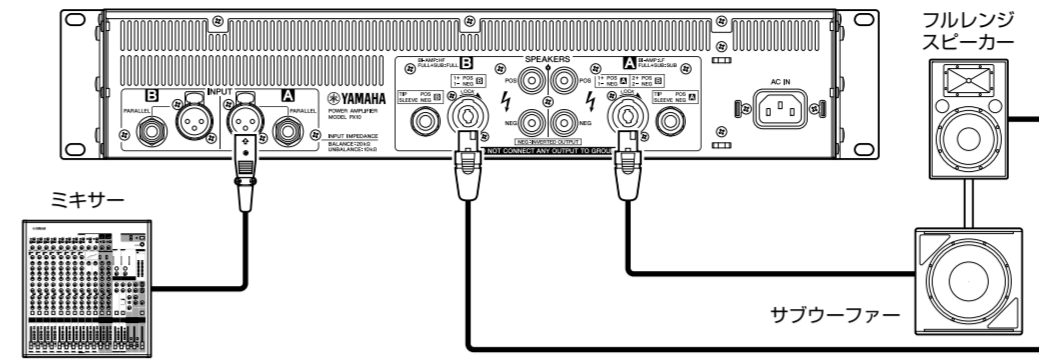
- [SPEAKERS] A端子にLチャンネル用のフルレンジスピーカー、[SPEAKERS] B端子にRチャンネル用のフルレンジスピーカーを接続します。
- [INPUT] A/B端子に音源(ミキサーなど)からの出力を接続します。[INPUT] A端子にLチャンネル、[INPUT] B端子にRチャンネルを接続します。
- 電源コードを接続し、電源を入れます。最初に本体と電源コードを接続してから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
- 誤って電源コードがAC IN端子から外れないように、付属の誤脱防止クランプで電源コードを固定してください。取り付け方法は裏面の「リアパネル」を参照してください。

NOTE
詳細は裏面の「接続方法」を参照してください。



(設定した値を適用) 「音質調整」に進んでください。

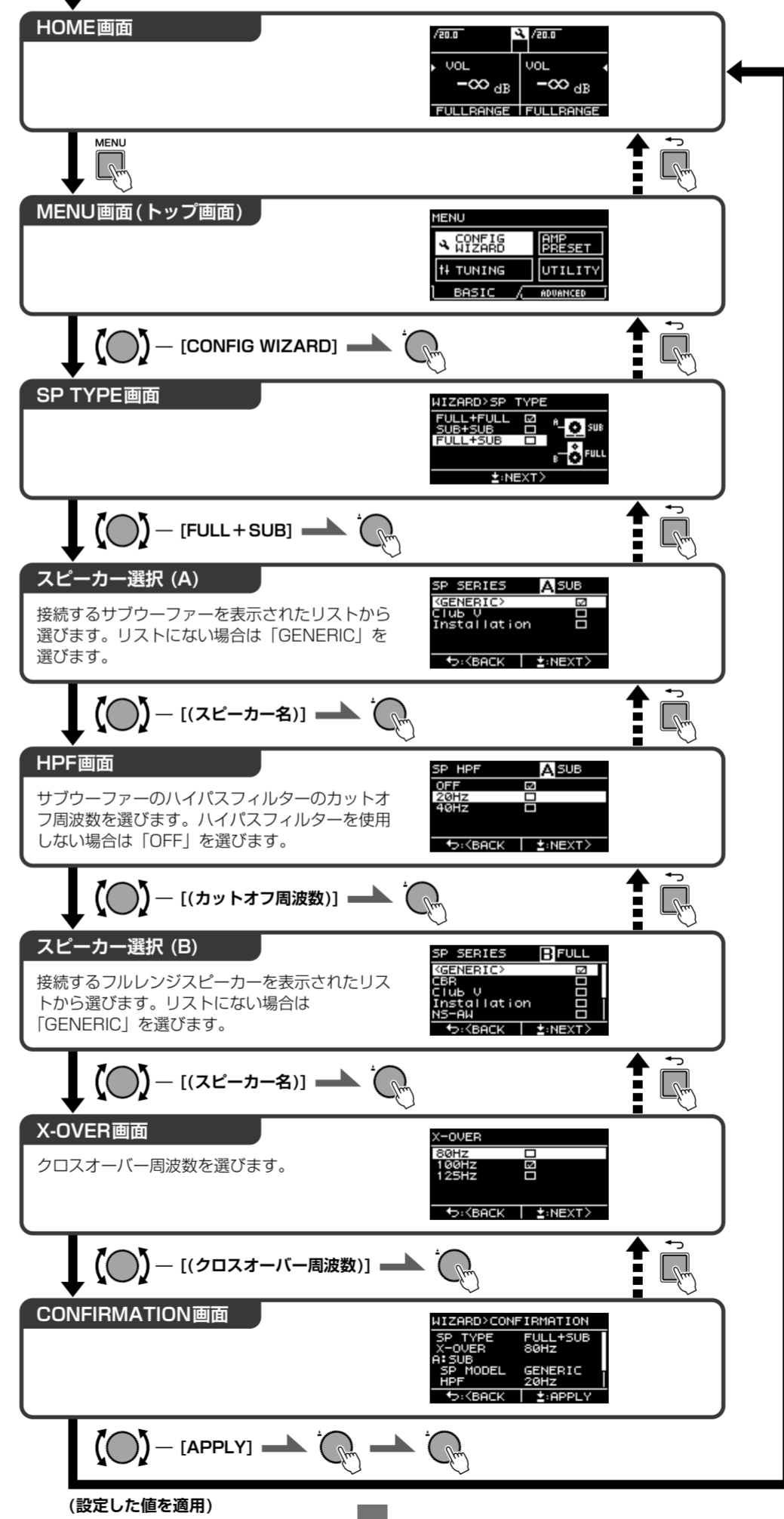
クロスオーバー接続 (フルレンジスピーカーとサブウーファーを1台ずつ使用)



注意
「事前準備」を必ず実施してください。電源が入った状態で接続しないでください。

- [SPEAKERS] A端子にサブウーファー、[SPEAKERS] B端子にフルレンジスピーカーを接続します。
- [INPUT] A端子に音源(ミキサーなど)からの出力を接続します。
- 電源コードを接続し、電源を入れます。最初に本体と電源コードを接続してから、電源コードをコンセントに差し込んでください。
- 誤って電源コードがAC IN端子から外れないように、付属の誤脱防止クランプで電源コードを固定してください。取り付け方法は裏面の「リアパネル」を参照してください。

NOTE
詳細は裏面の「接続方法」を参照してください。



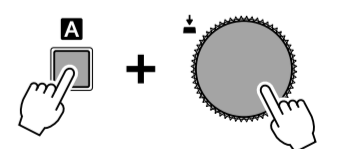
(設定した値を適用) 「音質調整」に進んでください。

音質調整

音源から信号を入力し、ボリュームノブを少しずつ右に回して、スピーカーから音がでることを確認し、適切な音量に調整します。

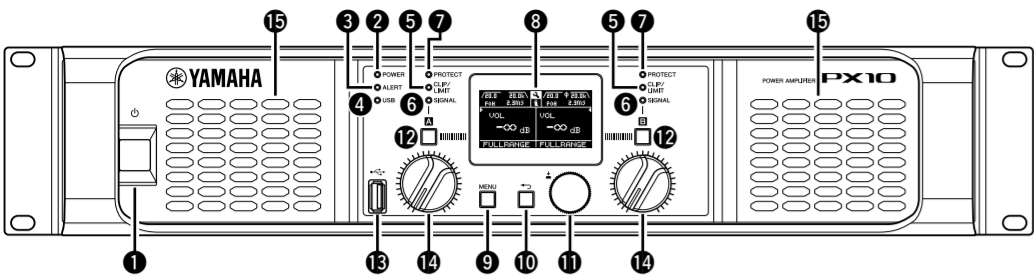


- NOTE**
- Aチャンネルをミュートするには、[A]キーとメインノブを一緒に押します。ミュートを解除するには、もう一度[A]キーとメインノブを一緒に押します。
 - Bチャンネルをミュートするには、[B]キーとメインノブを一緒に押します。ミュートを解除するには、もう一度[B]キーとメインノブを一緒に押します。



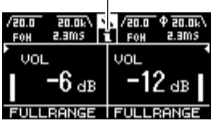
各部の名称と機能

フロントパネル



- 電源ボタン**
この機器の電源をオン/オフします。
 - [POWER] インジケータ**
電源がオンのときに点灯します。
 - [ALERT] インジケータ**
機器がトラブルを検出した場合に点灯します。トラブルの原因が解決されるまで点灯しつづけます。
- NOTE**
トラブルの内容は、ディスプレイ⑩に表示されます。HOME画面の **I** アイコンをメインノブで選択すると動作ログが表示されます。

I アイコン



- [USB] インジケータ**
使用できるUSBメモリーを[USB]端子に挿している場合に点灯します。USBメモリーにアクセスしている間は点滅します。
- 注記**
[USB]インジケータが点滅している間は、USBメモリーを抜かないでください。USBメモリーのデータが壊れる可能性があります。
 - [CLIP/LIMIT] インジケータ**
アンプやスピーカーを保護するためリミッターが動作している間や、入力信号がデジタル回路でオーバーしたり、アンプ出力でクリップしたときに点灯します。
 - [SIGNAL] インジケータ**
最大出力レベル(80)に対して-60dB以上の出力があるときに点灯します。
 - [PROTECT] インジケータ**
保護回路が動作している場合に点灯します。
 - ディスプレイ**
PXアンプの状態や設定メニューなどを表示します。

- [MENU] キー**
押すとMENUのトップ画面に移動します。
 - [←] (バック) キー**
押すと1つ前の画面や1つ前の画面に移動します。長く押すとHOME画面に戻ります。
 - メインノブ**
回すとパラメーターの値の変更やカーソルの位置の移動ができます。押すと設定した値の確定や選択項目の決定ができます。
 - [A]/[B] キー**
押すと操作するパラメーターのチャンネル(AチャンネルまたはBチャンネル)を切り替えます。
- NOTE**
メインノブと[A]キーを同時に押すとAチャンネルのミュートを切り替えます。メインノブと[B]キーを同時に押すとBチャンネルのミュートを切り替えます。

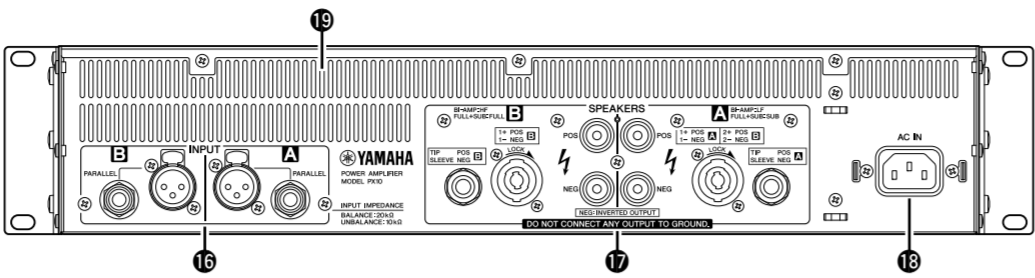
- [USB] 端子**
USBメモリーを挿して、PXアンプ内部のデータを読み書きします。
- 注記**
使用しないときは、端子を保護するため付属のUSBキャップを付けてください。

- ボリューム**
レベルを-∞ dB〜0 dBで調整します。

- 吸気口**
冷却ファン用の吸気口です。ここから吸気するので、障害物などで吸気口をふさがないようにしてください。

- NOTE**
- パネル操作していないときに、ディスプレイやインジケータを自動的に消灯するように設定できます(ブラックアウトモード)。ブラックアウトモードについては、「PX10/PX8/PX5/PX3リファレンスマニュアル」を参照してください。
 - ディスプレイを保護するため、ブラックアウトモードでない場合でも、PXアンプを20分間操作しなかつたとき、ディスプレイの表示が消えます。再度表示させるには、フロントパネルのいずれかのキーを押すかメインノブを回してください。

リアパネル



- [INPUT] A/B端子**
AチャンネルおよびBチャンネルとも以下の2種類の入力端子があります。
 - ・XLR入力端子
 - ・フォーン入力端子

- NOTE**
それぞれのXLR入力端子とフォーン入力端子はパラレル接続しています。入力端子として一度に使用できるのは1種類の端子だけなので、2つの入力信号をミックスすることはできません。

- [SPEAKERS] A/B端子**
スピーカーへの出力端子です。以下の3種類があります。
 - ・Neutrik NL4MD型スピーク出力端子
 - ・バインディングポスト出力端子
 - ・フォーン出力端子

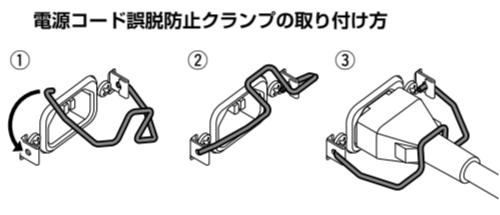
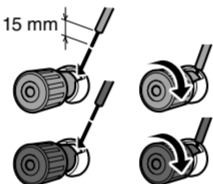
- 注意**
この端子や端子に接続したコードの金属部分に触らないでください。感電の恐れがあります。

注記

- 同じチャンネルの複数の出力端子にスピーカーを同時に接続する場合はパラレル接続になるため、合成インピーダンスが低くなりすぎないようにしてください。
- PXアンプはBT(L)(Balanced Transformer Less)方式を採用しています。AチャンネルとBチャンネルのマイナス端子同士の接続や、端子とシャーシとの接続は故障や誤動作の原因になります。誤って接続や接触させないでください。

■ 接続方法

- **バインディングポスト端子**
 - ・プラグなしの場合
スピーカーケーブルの先端の被覆を約15 mm外し、端子の穴に通して締め付けます。このとき、芯線がシャーシに当たらないようにしてください。

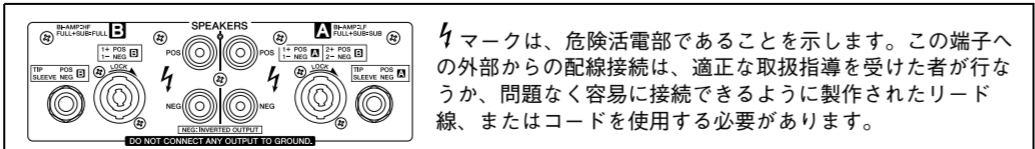


- 排気口**
冷却ファン用の排気口です。ここから排気するので、障害物などで排気口をふさがないようにしてください。

主な仕様

出力		PX10	PX8	PX5	PX3
		100 V 50 Hz/60 Hz			
1 kHz, non-clip, 20 msec burst, both channels driven	8Ω	1000 W × 2	800 W × 2	500 W × 2	300 W × 2
	4Ω	1200 W × 2	1050 W × 2	800 W × 2	500 W × 2
1 kHz, non-clip, 20 msec burst	8Ω/Power Boost mode	—	—	800 W × 1	600 W × 1
	4Ω/Power Boost mode	—	—	1200 W × 1	1000 W × 1
増幅方式 (出力回路)		Class D、バランズ出力回路 (BTL)			
全高調波歪率	1 kHz, 10 W	0.1%			
	1 kHz, half power	0.3%			
周波数特性	1 W, 80, 20 Hz〜20 kHz	±1.0 dB			
クロストーク		≦ -60 dB			
S/N 比	A-weighted, 8Ω, Gain setting = +14 dBu	101 dB	101 dB	100 dB	100 dB
最大入力電圧		+24 dBu			
入力インピーダンス		20 kΩ (バランズ), 10 kΩ (アンバランズ)			
電源条件		100 V 50 Hz/60 Hz *1			
消費電力	1/8 MAX power, 4Ω, pink noise at all channels	310 W	280 W	230W	160 W
	Idle, 4Ω	60 W	60 W	55 W	55 W
使用温度		0℃〜+40℃			
保存温度		-20℃〜+60℃			
外形寸法 (W×H×D)		480×88×388 mm			
質量		7.4 kg	7.2 kg	6.9 kg	6.9 kg

*1 定格電源電圧の+/-10%の電圧で動作することを確認しています。
* この取扱説明書では、印刷時刻の最新仕様で説明をしております。最新版の取扱説明書につきましては、ヤマハウェブサイトからダウンロードしてお読みいただけますようお願いいたします。



(hazardous)

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずよくお読みください。

必ずお守りください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

「警告」と「注意」について

誤った取り扱いをするなど生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

- 注意喚起を示す記号
- 禁止を示す記号
- 行為を指示する記号

- ・この製品の内部には、お客様が修理/交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
- ・データが破損したり失われた場合の補償や、不適切な使用や改造により故障した場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

警告

「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

- 電源コードが破損するようなことをしない。
 - ・ストローなどの熱器具に近づけない
 - ・無理に曲げない
 - ・傷つけない
 - ・電源コードに重いものをせない
 - ・感電や火災の原因になります。

- 電源はこの機器に表示している電源電圧で使用する。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。

- 電源コードは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。故障、発熱、火災などの原因になります。

- 電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
- 感電やショートのおそれがあります。

- この機器を電源コンセントの近くに設置する。電源プラグに容易に手の届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源を切った状態でも電源プラグをコンセントから抜かないで電源から遮断されません。電源プラグに容易に手が届き、操作できるように設置してご使用ください。

- 長期使用しないときや雷雨のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電や火災、故障の原因になることがあります。

接続

- ・接地接続は必ず、主電源プラグを主電源につなぐ前に行う。
 - ・接地接続を外す場合は、必ず主電源プラグを主電源から切り離してから行う。
- 電源コードには、アース線が付いています。必ずアース線を接地接続してから、電源プラグをコンセントに差し込んでください。

分解禁止

- この機器の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。感電や火災、けが、または故障の原因になります。異常を感じた場合など、点検や修理は、必ずお買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

水に注意

- この機器の上に花露水や薬品など液体の入ったものを置かない。
 - 浴室や雨たまりの屋外など湿気が多いところで使用しない。
- 内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。感電のおそれがあります。

聴覚障害

- 大きな音量で長時間スピーカーを使用しない。聴覚障害の原因になります。

- オーディオシステムへの電源を入れるときは、この機器を最初に戻す。聴覚障害やスピーカーの損傷になることがあります。

火に注意

- この機器の近くで、火気を使用しない。火災の原因になります。

異常に気づいたら

- 下記のような異常が発生した場合、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
 - ・電源コード/プラグがいたんだ場合
 - ・製品から異常なおいや煙が出た場合
 - ・製品の内部に異物が入った場合
 - ・使用中に音が出なくなった場合
 - ・製品に亀裂、破損がある場合

- そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。

- この機器を落とすなどして破損した場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。

注意

「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

電源/電源コード

- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。

設置

- 不安定な場所に置かない。この機器が転倒して故障したり、けがをしたりする原因になります。

- この機器の通風孔(放熱用スリット)をふさがない。内部の温度上昇を防ぐため、この機器の前面/背面には通風孔があります。機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

- この機器を設置する際は、
 - ・布やテープ/クロスをかけない。
 - ・じゅうたんやカーペットなどの上には設置しない。
 - ・天面以外を上にして設置しない。
 - ・風通しの悪い狭いところへは押込まない。
 機器内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。本機の周囲に上40 cm、左右10 cm、背面10 cm以上のスペースを確保してください。

- 塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない。故障の原因になります。

- この機器を子供の手が届くところに置かない。お子様が誤って機器の穴に指を入れて、けがをえるおそれがあります。

- この機器を移動するときは、必ず接続ケーブルをすべて外した上で行う。ケーブルをいためたり、お客様やほかの方が転倒したりするおそれがあります。

- この機器をEIA標準ラックにマウントする場合は、「PX10/PX8/PX5/PX3リファレンスマニュアル」の「ラックマウント」をよく読んでから設置する。放熱が不十分だと機器内部に熱がこもり、火災や故障、誤動作の原因になることがあります。

接続

- ・ほかの機器と接続する場合は、すべての電源を切った上で行う。
 - ・電源を入れてすぐ切り切りする前に、必ず機器の音量(ボリューム)を最小にする。
- 感電、聴覚障害または機器の損傷になることがあります。

- スピーカーの接続には、スピーカー接続専用のケーブルを使用する。それ以外のケーブルを使うと、火災の原因になることがあります。

手入れ

- この機器の手入れをするときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。感電の原因になることがあります。

取り扱い

- この機器の通風孔から金属や紙片などの異物を入れない。感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店またはヤマハ修理ご相談センターにご依頼ください。
 - ・この機器の上ののりや重いものをのせたりしない。
 - ・ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
- この機器が破損したり、けがをしたりする原因になります。

注記 (ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

製品の取り扱い/お手入れに関する注意

- ・テレビやラジオ、AV機器、携帯電話など他の電気製品の近くに使用しないでください。この機器またはテレビやラジオなどに雑音が生じる原因になります。
- ・直射日光のおたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に湿度が極端に低いところ、また、ほこりや塵埃がたまりやすくなる場所に置かないでください。この機器の(パネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります)。
- この機器上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。この機器のパネルが変色/変質する原因になります。
- この機器には前面吸気、後面排気方式の冷却ファンが装備されています。障害物などで吸気口や排気口をふさぐことのないようにご注意ください。
- ・手入れするときは、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。
- ・機器の周囲温度が極端に変化して(機器の移動時や急激な冷房下など)、機器が結露しているおそれがある場合は、電源を入れてすぐに数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。結露した状態で使用すると故障の原因になることがあります。
- ・この機器はスピーカー再生以外の用途には使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- ・使用後は、必ず電源をオフにしましょう。
- ・電源スイッチのオン/オフを、連続して素早く切り替えると誤動作などの原因になることがあります。電源スイッチをオフしてから、再度スイッチをオンにする場合は、5秒以上の間隔を空けてください。

コネクターに関する注意

- ・XLRタイプコネクターのピン配列は、以下のとおりです(IEC60268規格に基づいています)。
 - 1: グラウンド(GND)、2: ホット(+), 3: コールド(-)
- ・ス피コン型コネクターの接続には、Neutrik NL4FCプラグのスピーカーケーブルをお使いください。

お知らせ

- 製品に搭載されている機能/データに関するお知らせ
 - ・この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。
 - ・本製品には、株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。
- 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ
 - ・この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。
 - ・本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
 - ・ソフトウェアは改良のため予告なしにバージョンアップすることがあります。
 - ・ヤマハプロオーディオウェブサイト、FAQ(よくあるご質問)と答え)を掲載しています。http://www.yamahaproaudio.com/japan/ja/

保証書

持込修理		保証書	
品名	パワーアンプリアファイアー	※ 販売店	所在地
※ 品番		※ 販売店	所在地
※ シリアル番号		※ 販売店	所在地
保証期間	本体 お買い上げの日から1ケ年間	※ 販売店	所在地
※ お買い上げ日	年 月 日	※ 販売店	所在地
お客様	住所 お名前 電話	※ 販売店	所在地
ご販売店様へ ※ 印欄は必ずご記入ください。		株式会社ヤマハミュージックジャパン PA営業部 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41番12号 KDX館ビル1F TEL. 03-5652-3850	

保証規定

- 保証期間中、正常な使用状態(取扱説明書、本体付付属品)などの注意書に従った使用状態で故障した場合には、無償修理を致します。
- 保証期間内に故障して無償修理をお受けになる場合は、商品と本書をご持参ご提示のうえ、お買い上げ販売店にご依頼ください。
- ご購入後、ご届後の修理についてお買い上げの販売店にご依頼できない場合は、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合せください。
- 保証期間内で次の場合は有料となります。
 - 1) 本書のご提示がない場合。
 - 2) 本書にお買い上げの年月日、お客様、お買い上げの販売店の記入がない場合、及び本書の字句を書き替えられた場合。
 - 3) 使用上の誤り、他の機器から受けた障害または不当な修理や改造による故障及び損傷。
 - 4) 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地災、公害、塩害、異常電圧などによる故障及び損傷。
 - 5) お客様のご要望により出張修理を行なう場合の出張料金。
- この保証書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
- この保証書は再発行致しかねますので大切に保管してください。

- ※ この保証書は本書に示した期間、条件のもとにおいて無償修理をお約束するものではありません。したがってこの保証書によってお客様に法律上の権利を制限するものではありませんので、お客様が保証書にサインした場合は、お買い上げの販売店、※ヤマハ修理ご相談センターにお問合せください。
- ※ ご記入いただきましたお客様の氏名、住所などの個人情報情報は、本保証規定に基づく無料修理に関する場合のみ使用致します。取得した個人情報は適切に管理し、法令に定める場合を除き、お客様の同意なく第三者に提供することはありません。
- ※ その他の連絡窓口につきましては、本取扱説明書をご参照ください。

アフターサービス

お問い合わせ窓口

お問い合わせや修理のご依頼は、お買い上げ店、または次のお問い合わせ窓口までご連絡ください。

●機能や取り扱いに関するお問い合わせ

ヤマハ プロオーディオ・インフォメーションセンター

0570-050-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **03-5488-5447**
受付 月曜日～金曜日 11:00～19:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)
FAX **03-5652-3634**
オンラインサポート <http://jp.yamaha.com/support/>

●修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター

0570-012-808

※ 固定電話は全国市内通話料金でご利用いただけます。通話料金は音声案内で確認できます。

上記番号でつながらない場合は **053-460-4830**
受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)
FAX **03-5762-2125** 東日本(北海道/東北/関東/甲信越/東海)
06-6649-9340 西日本(北陸/近畿/四国/中国/九州/沖縄)

修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00
(土曜、日曜、祝日およびセンター指定休日を除く)
* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター
〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル14号棟A-5F
FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター
〒556-0011 大阪府大阪市浪速区難波中1丁目13-17
ナナ|本6本ニッセルビル7F
FAX 06-6649-9340

- 販売元
(株)ヤマハミュージックジャパン PA営業部
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町41-12 KDX館ビル1F

* 名称、住所、電話番号、営業時間、URLなどは変更になる場合があります。

ヤマハ プロオーディオ ウェブサイト
<http://www.yamahaproaudio.com/japan/>

ヤマハダウンロード
<http://download.yamaha.com/>

ASCAMPAMPCCA7

Manual Development Group
© 2016 Yamaha Corporation
2016年4月 改訂 POHD-B0
Printed in China